

あららぎ



令和3年度 学校だより
甲府市立 上条中学校
特別号

全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年度の全国学力・学習状況調査は、5月27日（木）に小学校6年生と中学校3年生を対象に全国の小中学校で実施されました。本年度は「国語」「数学」に関する問題と、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。調査の目的は、生徒の学力や学習状況調査を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導等に役立てることです。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者・地域の皆様にもお知らせするとともに、本校ホームページにも掲載していきたいと思っております。

1. 本校の状況

本校の国語の平均正答率は、全国（公立）とほぼ同等、山梨県（公立）をやや下回っている。本校の数学の平均正答率は、全国（公立）、山梨県（公立）ともにほぼ同等である。

	国語	数学
山梨県（公立）平均正答率	66	57
全国（公立）平均正答率	64.6	57.2



2. 各教科の結果から

国語と数学は、それぞれ次の2項目を一体的に出題されている。

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(1) 国語

全体の結果から見ていくと、正答率は全国とほぼ同等、山梨県と比べて全体的にやや下回る結果となった。特に、「書くこと」に課題があり、意見文の下書きを直した意図を答える問題は一番差が大きかった。「書くこと」の問題における無解答率が特別高い訳ではないということから考えると、答えようとする意欲はあるものの正解にたどり着けていないことがわかる。

反面、漢字の読みの問題では平均を上回った。毎回の授業の中で漢字練習を継続的に行い、生徒が懸命に取り組んだ成果であると考えられる。

(2) 数学

全体の平均正答率は、山梨県や全国とほぼ同等であった。基礎基本の確実な定着のために、小単元でのチェックテストに意欲的に取り組んだ成果と考える。領域別に見てみると、「数と式」「関数」「資料の活用」の領域は県や全国とほぼ同等であったが、「図形」の領域では正答率が下回る設問があった。図形の移動にともなって条件が変わる場合の設問に対応できていないことがわかった。

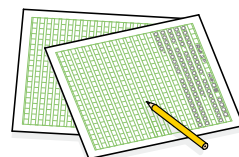
また、無答率（解答欄に何も書かない生徒の割合）に着目してみると、領域にかかわらず「問題文

やグラフからその特徴や数量の間の関係を読みとり、式で表したりことばで説明したりする」ことに
対する苦手意識が強く諦めてしまう生徒が多いことがわかった。本校の大きな課題といえる。

3. 教科における主な改善点

(1) 国語

○ 特に正答率が低かった「意見文の下書きを直した意図」を答える問題では、それぞれの段落がどのように関係しているのかを読み取る必要がある。普段の作文や「書くこと」の授業においても、読み手の立場に立って文章を整えるということを行い、段落の意味や文章の構成について考えていく。

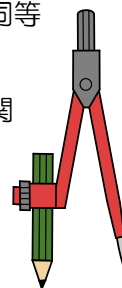


○ 「随時」の意味を答える問題の正答率も平均を大きく下回った。漢字の読みの問題の正答率は高いが、語句の意味を一つひとつ捉えられていない部分がある。書きや読みの練習はこれまで通り継続しながら、意味や用法についても授業の中で触れていく。

(2) 数学

○ 基本的な知識・技能を問う設問や教科書に準ずる設問については、全体としてもほぼ同等であった。引き続き小単元チェックテストを行い、基礎基本を確実に定着させていく。

○ 前述のとおり、本校は、図、表、グラフを多用した長文の設問で、特徴や数量の間の関係を読みとったり式やことばで説明したりすることに課題がある。学校ではこのような課題に対し、「用語の正確な理解」「設問の読解」「解答を導く要件の理解」「式やことばで説明する力」を身につける授業を重点的に行っていく。



4. 質問紙の結果から

山梨県や全国と比較し、特に差が顕著（10ポイント以上）であった質問は、「自分には、よいところがありますか」であり、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答が、県の平均を大きく下回った。また、これに続いて肯定的な回答が低い設問が「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」であった。「自己肯定感」の低さが「自分の思いを伝えること」を苦手にさせている傾向が見られた。

また、「平日、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」という質問に対し、「4時間以上」と答えた割合が県平均より10ポイント以上高く、「ゲーム依存度の高さ」がうかがわれた。

5. 質問紙調査からの改善点

本校の質問紙調査の結果から見える特徴として、「自己肯定感」に関する回答の割合が、他の質問項目と比較すると低くなっている。また、これに続く「自分やると決めたことは、やり遂げるようにしている」の項目も県平均を下回っている。「やり遂げる体験」の少なさが「自己肯定感」の低さにつながっていることから、特別活動の時間を使い、学園祭や定期テストなどにおいて、自分自身の目標、達成するための手段を考えさせながら、活動や学習を進めていきたい。また、各教科の授業でも、「めあて」を設定し、「振り返り」を行うことで、自分自身何ができるようになったのかを認識させ、「達成感」を感じさせ「自己肯定感」の向上につなげていきたいと考える。

「ゲーム依存度の高さ」に対しては、中間テストの学習強化週間に合わせて、「ノーメディアデー」の実施を考えている。レベル①「家で勉強中はメディアを一切断つ」～レベル④「1日中一切メディアを断つ」までのレベルを自分で設定させ、その達成に向けてチャレンジさせていきたい。